

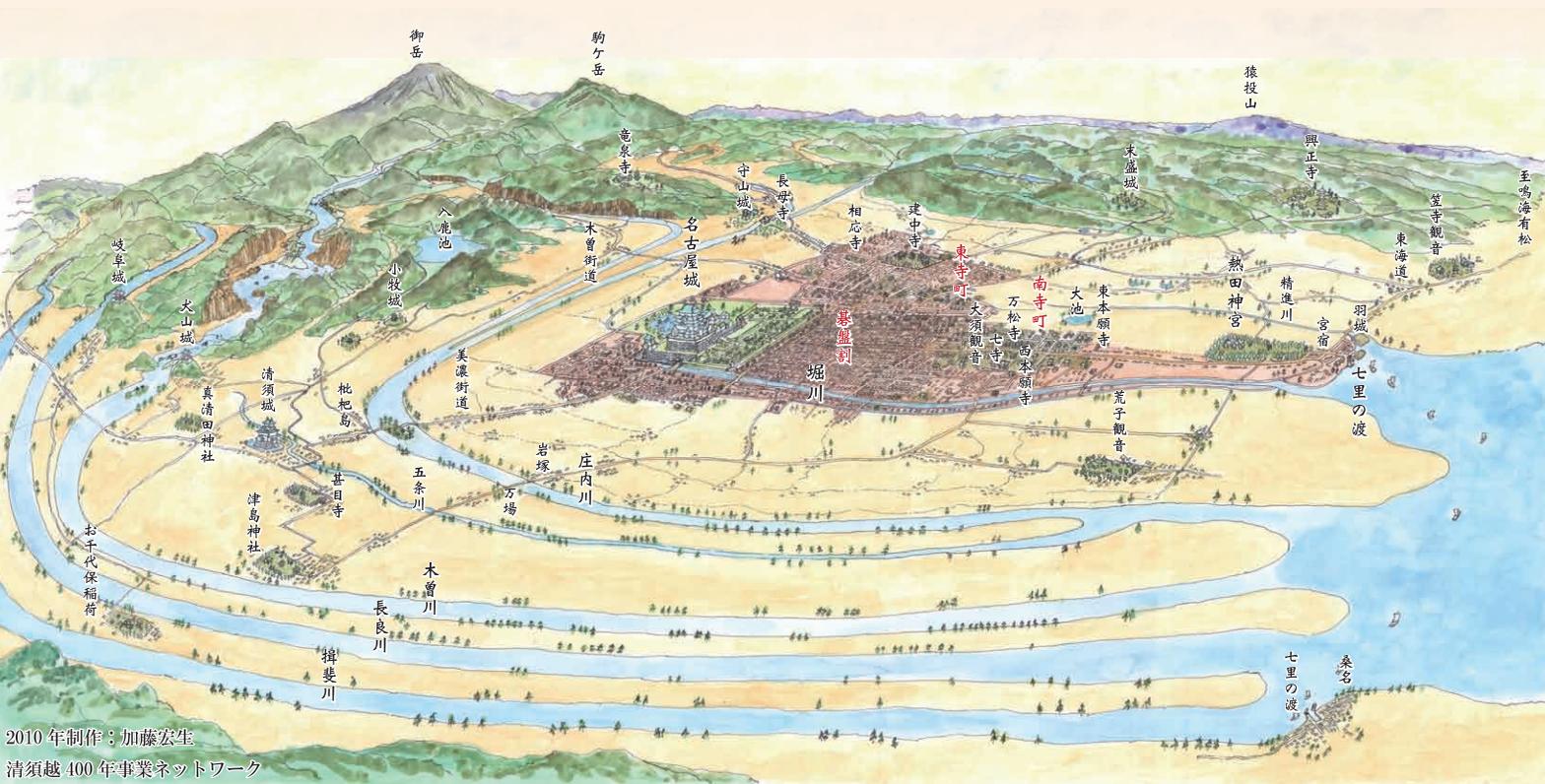
名古屋市歴史まちづくり戦略(案)

～「語りたくなるまち名古屋」の実現に向けて～

《概要版》

みなさまのご意見をお寄せ下さい!

2月25日まで



歴史まちづくり戦略とは

名古屋のまちは、熱田の杜から清須越し、産業都市化、戦災からの復興など、幾多の歴史を積み重ねながら発展してきたまちであり、各地域には様々な歴史的資源があります。

名古屋市では、地域の歴史的資源を活かした魅力的な都市環境の維持・形成に向けて、歴史分野に関するまちづくりの基本方針として、名古屋市歴史まちづくり戦略(案)を策定しました。

名古屋市歴史まちづくり戦略(案)について、みなさまのご意見をお寄せください。

平成23年1月 名古屋市

名古屋のまちの成り立ち

①城下町以前の名古屋

- ・およそ1万年前（縄文時代）の海岸線は現在の都心周辺にあり、現在の名古屋南西部は海の中でした。
- ・海岸線の後退とともに沖積平野が形成され、田畑や集落が形成されるようになります。
- ・5～6世紀頃には、豪族の「尾張氏」がこの地域一帯を支配するようになりました。熱田周辺をはじめ、上志段味や大高近辺には、伝承とともに「尾張氏」ゆかりの古墳や神社が残されています。



縄文時代の土器



熱田の杜

《古代～中世の主な歴史的資源》



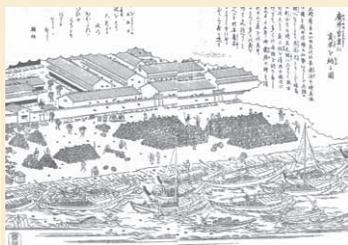
沖積平野	縄文期の推定海岸線	● 主な遺跡・貝塚
洪積台地	戦国末期の推定海岸線	● 主な古墳
丘陵地	主要神社	▲ 主な古窯
	四観音寺	

②城下町名古屋の形成と発展

- ・1610（慶長15）年、戦国の乱世を制した徳川家康は、名古屋台地の北端に名古屋城を築き、尾張の中心であった清須城下町を名古屋に移しました（清須越）。
- ・城下町の物流を支える堀川が開削され、本町通とともに、古くからの交通の要衝であった熱田のまちと城下町をつなぎました。
- ・城下町を中心に、名古屋独自の文化や産業が発展していきます。
- ・東海道などの街道が整備され、城下町と周辺諸国が結ばれるようになります。

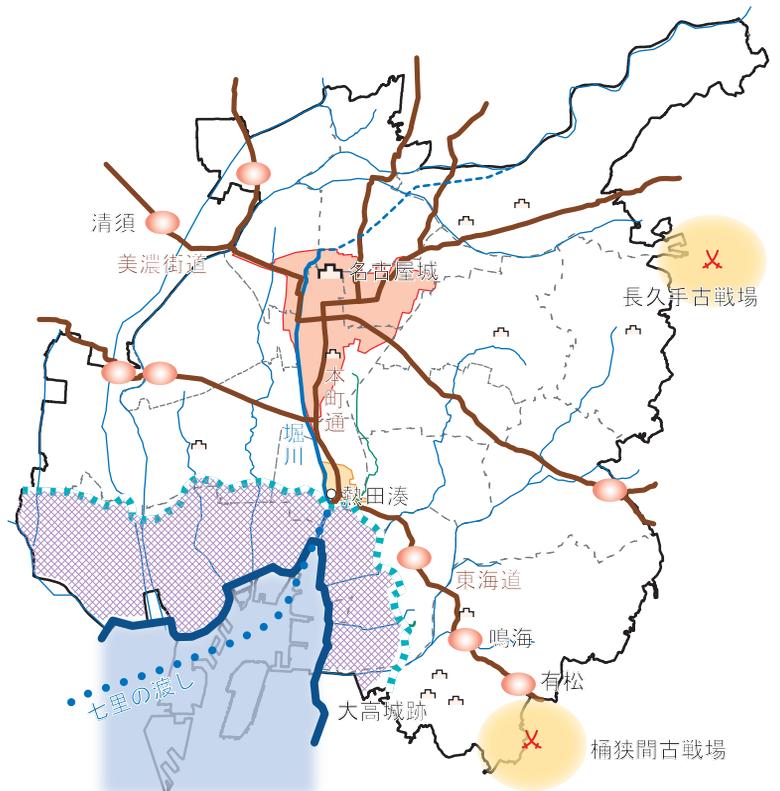


焼失前の名古屋城



江戸時代の堀川
(尾張名所図会)

《近世の主な歴史的資源》



城下町	戦国末期の推定海岸線	● 宿場町等
熱田	江戸末期の推定海岸線	□ 主な城跡等
新田開発	旧街道	⊗ 主な古戦場跡

③近代産業都市への飛躍

- ・明治時代になると、鉄道が敷設され、名古屋駅が開業しました。また、熱田湊に代わって名古屋港が整備されます。
- ・急速な近代化・産業発展に伴う人口増加とともに、旧城下町の周辺部では基盤整備が進められ、市街地が拡大していきます。
- ・名古屋港と名古屋駅を結ぶ中川運河が整備され、港や運河の周辺には広大な工業地が形成されるようになります。
- ・広小路通や大津通には市電が敷設され、沿道には官公庁、銀行、デパート等の近代建築が建ち並ぶようになります。

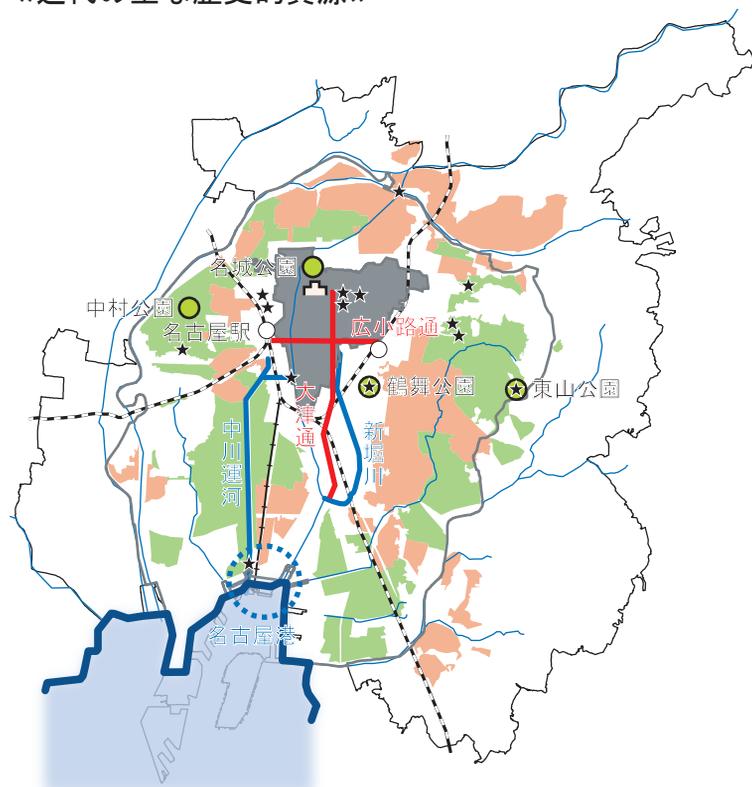


開削当時の中川運河



昭和初期の栄町交差点

《近代の主な歴史的資源》



④戦災からの復興

- ・戦災により市街地の大半を焼失しましたが、直ちに大胆な戦災復興計画が策定され、100メートル道路を始めとする広幅員道路の整備や、都心の墓地を平和公園へ集中移転するなどの大胆な都市計画が実施されました。
- ・広幅員道路の整備とあわせて、地下鉄、地下街、テレビ塔などがつくられ、名古屋城天守閣も再建されます。
- ・周辺市町村との合併による市域の拡大とともに、区画整理による宅地整備が進められ、郊外にも住宅地が拡大していきました。

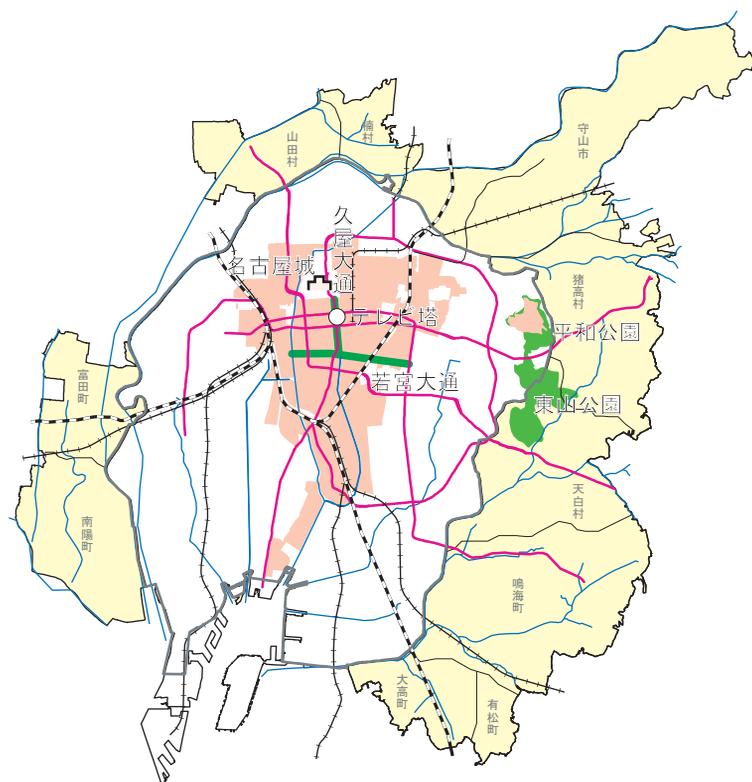


戦災直後の都心



現在の都心

《戦後の主な歴史的資源》



※各図面については、できるだけ分かりやすい表現となるよう、イメージとして作成しています。

歴史まちづくり戦略の展開

戦略の基本理念

戦略の目標

～人・まち・歴史をつなぎ、絵となり物語となり、時とともに熟成する～

「語りたくなるまち名古屋」の実現

～身近に歴史が感じられ、もっとまちが好きになる～

協働理念

歴史的資源をみんなでももり・いかし・つなぐ

目標年次

次の100年（開府500年）を見据えつつ、
おおむね20年後（2030年）に向けた取り組みとします。

戦略推進の視点

視点1

都市の形成過程、地域の歴史的資源を大切に
する視点

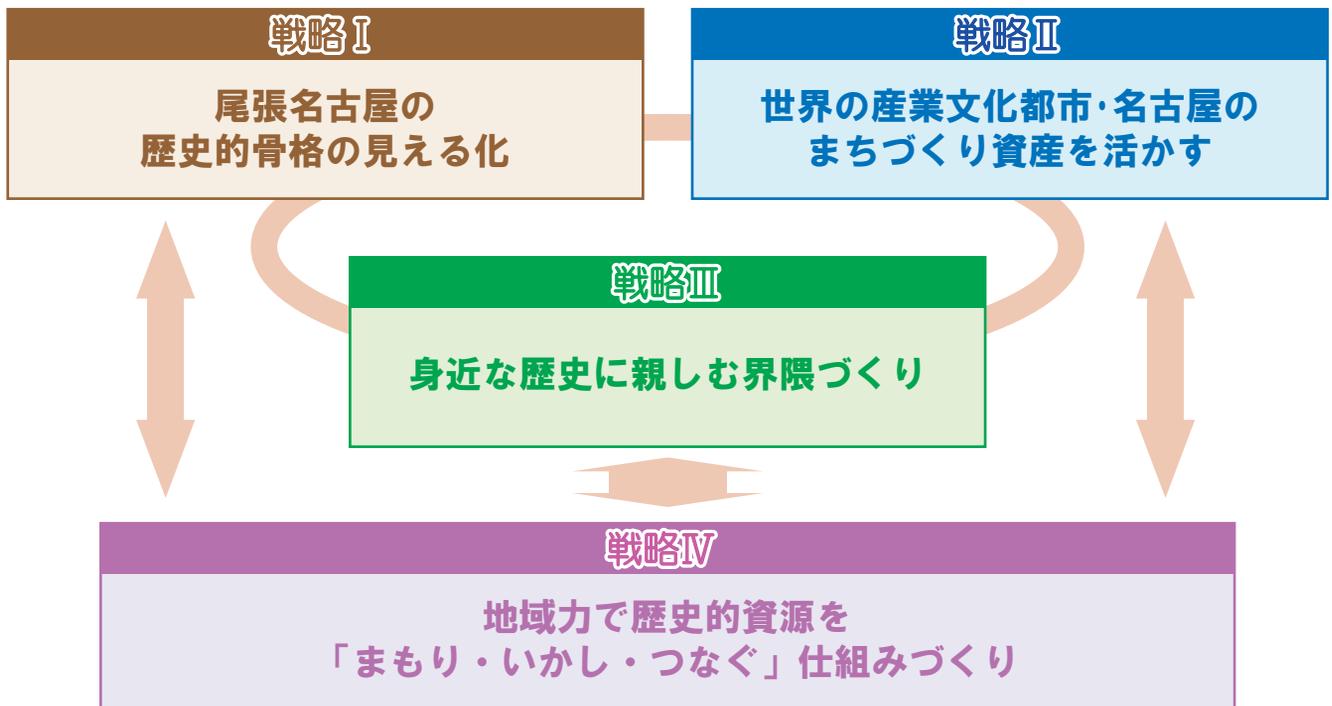
視点2

多様な市民（生活者・来訪者・事業者等）を
大切にする視点

視点3

分野横断的な取組みを
推進する視点

戦略の枠組み



<地域展開のイメージ>



市域の変遷	● 城下町	--- 旧街道	卍 主な神社
■ 明治時代	● 熱田ゆかりの地域	— 広小路・大津通	🗿 主な古墳
■ 大正～昭和初期	○ 宿場町等	— 100メートル道路	卍 四観音寺
海岸の変遷	● 旧集落	— 主な運河・河川	○ 主な武将ゆかりの地
— 縄文期の推定海岸線	● 名古屋港	--- 主な用水	🏰 主な城跡等
■ 新田開発、築港・埋立	● 主な公園	--- 主な水道	🗡️ 主な古戦場跡
	● 主な近代住宅地	--- 主な鉄道	★ 主な近代都市資産

※できるだけ分かりやすい表現となるよう、イメージとして作成しています。



名古屋城と城下町、熱田、街道、宿場町など、熱田の杜から近世城下町の時代にかけて形成された、まちの核や軸を活かし、名古屋独自の歴史・文化が身近に感じられるまちづくりを進めます。

1. 名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承

名古屋のまちのシンボルとして400年の歴史を歩んできた名古屋城の城郭全体の再生に取り組みます。また、人々の暮らしとともに名古屋のアイデンティティを築いてきた城下町の歴史・文化を継承し、未来に伝えていきます。

●名古屋城の再生

- ・日本を代表する近世城郭である名古屋城全体を、世界に誇る名古屋の歴史的・文化的シンボルとして再生します。
- ・特別史跡名古屋城跡全体の保存・整備
- ・本丸御殿の復元
- ・天守閣の眺望景観の保全
- ・名城公園、外堀などの水辺・緑地の保全と活用
- ・三の丸（官庁街）の景観・風致の維持向上



本丸御殿復元イメージ



テレビ塔から天守閣の眺望景観



●城下町における界隈の特色を活かしたまちづくり

○城下中心部

- ・碁盤状の町割り・通り名等の継承
- ・街区内部の緑地等の継承・再生

○城下南部

- ・下町の文化・賑わいの再生
- ・本町通周辺の歴史的環境を活かしたまちづくり

○城下西部

- ・四間道周辺の町並みの保存・形成
- ・美濃街道～四間道周辺の産業文化・歴史文化を活かしたまちづくり

○城下東部

- ・白壁・主税・榎木町筋の町並みの継承
- ・徳川園等の歴史的環境の維持向上



四間道の町並み



白壁町筋の町並み

●伝統文化・伝統産業の継承

- ・城下町を中心に発展した名古屋独自の伝統文化や伝統産業を、次の世代へ伝えていきます。

2. 悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上

熱田神宮をはじめ、古墳、街道・湊、水辺・緑地などの多様な歴史的資源が集積する熱田界隈について、尾張名古屋のルーツを物語るまちとして魅力向上を図ります。また、古代熱田と伝承でつながる上志段味や大高一帯において、歴史ロマンが感じられるまちづくりを推進します。

●熱田界隈の重層的な歴史的資源を活かしたまちづくり

- ・熱田界隈を気軽に巡り・歩きまわりたくなる環境づくりを推進し、多様で重層的な歴史的資源をつなぎ、賑わいと趣の感じられる拠点の形成に努めます。



熱田の杜



古墳
(断夫山古墳)



街道・湊
(七里の渡し場跡)



水辺・緑地
(白鳥庭園)



歴史的建造物

●熱田ゆかりの地域の魅力向上

○上志段味

- ・豊かな自然の中で、河岸段丘とともに古墳群を保存・活用（「歴史の里」構想の推進）

○大高

- ・歴史ある社寺、城跡などの史跡、風情ある町並みなどを活かした界隈の魅力向上

3. 有松・堀川など「まち・むら」をつなぐ「道・水」を活かす

宿場町・門前町など特色ある「まち・むら」や、尾張名古屋をつなぐ「道・水」の歴史的な環境を継承するとともに、固有の歴史的資源を活かしたまちづくりを推進します。

●尾張名古屋を彩る「まち・むら」の魅力向上

○有松

- ・旧東海道沿いの町並みの保存・形成
- ・江戸期からの伝統を伝える商家等の伝統的建造物の保存・活用
- ・町並みと調和した街路環境づくり
- ・伝統産業(絞り)や伝統文化(山車)を活かしたまちづくり



旧東海道沿いの町並み

○鳴海

- ・宿場町、城跡、芭蕉ゆかりの地などを活かした界隈の魅力向上

○笠寺

- ・笠寺観音、旧東海道、見晴台遺跡などを活かした界隈の魅力向上

○荒子

- ・荒子観音や前田家ゆかりの史跡などを活かした界隈の魅力向上

●水の歴史を活かしたまちづくり

○堀川

- ・黒川樋門、松重閘門などの歴史的建造物の保存・活用
- ・歴史が感じられる水辺景観の形成や沿岸の賑わい創出(四間道・納屋橋周辺等)



堀川と沿岸の店舗(納屋橋周辺)

●道の歴史を活かしたまちづくり

○東海道

- ・江戸期の面影を残す沿道の景観や街道周辺の豊富な史跡などを活かした、歩いて楽しい道づくりの推進

○本町通

- ・城下町の中心軸であった本町通の歴史の見える化の推進



世界のものづくりをリードする産業文化都市への発展を支えた都市基盤や、大都市名古屋の礎を築いた人々に関連する歴史・文化資源、大胆な都市計画により形成された戦災復興のまちづくり資産などを活用・再生し、成熟社会にふさわしい、環境と人にやさしい都市空間の形成を目指します。

1. 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生

名古屋の近代化・産業発展を支えた都市基盤や、ものづくりの歴史を物語る産業施設等を歴史的資源として捉え、まちづくりに活かします。

●近代名古屋の都市基盤を活かしたまちづくり

○中川運河の再生

・都心と名古屋港を結ぶ物流幹線軸として名古屋の産業・経済を支えてきた中川運河について、運河の持つ様々な機能や可能性に着目し、「交流機能の充実」「港湾機能の持続的発展」「環境機能の向上」「防災・安全機能の向上」など、『水辺交流環境軸』としての再生をめざします。



松重閘門



中川運河沿岸の倉庫群

○名古屋港周辺の魅力向上

・ガーデンふ頭周辺に残る歴史的建造物を活かした拠点づくり等



名古屋港（ガーデンふ頭）

○鶴舞公園の景観・風致の維持向上

・近代建築や記念碑の保全などによる風格が感じられる公園環境の継承等



鶴舞公園（噴水塔・公会堂）

○水道施設の保存・活用

・水道の歴史を物語る建造物の保存・活用等



鍋屋上野浄水場第一ポンプ所

●産業集積地の歴史を活かしたまちづくり

- ・ものづくりの歴史を物語る産業施設の保存・活用と、産業観光の推進
- ・古い工場や倉庫などの用途転換による再生
- ・土地利用転換時における、土地の記憶の継承



ノリタケの森
(旧日本陶器製土工場)



産業技術記念館
(旧豊田自動織布工場)

2. 近代名古屋のハイカラ文化を活かす

名古屋の近代化や産業発展を担い、大都市名古屋の礎を築いた人々に関連する歴史・文化資源や、大正～昭和初期につくられた近代住宅地・近代建築の魅力を活かしたまちづくりを進めます。

●「文化のみち」の推進

- ・ 格調高い意匠の近代建築や、近代名古屋において活躍した進取の起業家や文化人が建築した特色ある近代洋風住宅など、多くの歴史的資源が残る名古屋城から徳川園にかけての一带を、「文化のみち」として育みます。

◀「文化のみち」における主な歴史的建造物▶



市政資料館
(旧名古屋控訴院庁舎・
地方裁判所・区裁判所庁舎)



金城学院高校栄光館



名古屋陶磁器会館



旧豊田佐助邸



文化のみち樫木館
(旧井元為三郎邸)



文化のみち二葉館
(旧川上貞奴邸)

●近代住宅地の景観・風致の維持向上

- ・ 揚輝荘を市民利用施設として整備・公開
- ・ 城山～覚王山界隈の魅力向上
- ・ 八事～南山界隈の景観・風致の維持向上



揚輝荘聴松閣



覚王山日泰寺の参道

●近代建築の保存・活用

- ・ 景観重要建造物の指定や、都市計画制度の活用等による近代建築の保存・活用
- ・ 市所有の近代建築の保存・活用



広小路通沿いの近代建築



市役所本庁舎

3. 戦災復興により形成された資産を活かす

大胆な戦災復興計画によって形成されたまちづくり資産を、環境と人にやさしい都市空間として再生するなど、新たなまちづくりを展開します。

●都心のゆとりある都市基盤を活かしたまちづくり

- ・ 広幅員道路を活かした交通まちづくり
- ・ 久屋大通の再生
- ・ テレビ塔の活用



久屋大通とテレビ塔



なごやカーフリーデー

●東山の森の再生

- ・ なごや東山の森づくりの推進
- ・ 東山動植物園の再生



平和公園



東山動物園の温室

戦略Ⅲ 身近な歴史に親しむ界隈づくり

それぞれの地域において、身近な歴史的建造物、街道・路地、鎮守の森などの多様な歴史的資源の発見や情報発信に取り組み、地域住民が主体となって身近な歴史に親しみ・楽しむことができる環境づくりを促進します。

1. 身近な歴史的界隈の趣を活かす

- ・市内の歴史的界隈に関する基礎調査の実施、情報の発信・共有
- ・界隈の魅力を活かした地域まちづくりの推進

※歴史的界隈・・・まちの成り立ちを語る上で欠かせない祭礼・産業などの生活文化、地形・町割などの周辺環境を背景に、歴史的建造物がまとまりをもって存在する区域（第31回名古屋市広告・景観審議会より）

《界隈の魅力を活かした地域まちづくりの主な視点》

- ・ 武将ゆかりの地や古戦場
- ・ 名古屋を往来した人々
- ・ 近代のロマンや風情



桶狭間古戦場公園



宮本武蔵の碑（笠寺観音）



旧旅館

- ・ 水と緑の歴史的環境



庄内用水

- ・ 集落や街道の風致



中小田井の町並み

- ・ 古代の歴史風景



見晴台遺跡

2. 防災まちづくりとの連携

- ・ 地域の歴史的環境に配慮した災害に強いまちづくりの促進
- ・ 歴史的建造物の防災性能の向上の促進（防火・耐震など）

戦略Ⅳ 地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくり

地域における市民活動の促進、分野横断的な行政施策の展開、多様な主体をつなぐネットワークの形成などにより、地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくりを進めます。

1. 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進

- ・ 歴史的建造物に関する総合窓口の設置
- ・ 身近な歴史的建造物の登録・認定制度の実施
- ・ 協働による技術的・経済的支援（専門家の派遣など）



住民主体による募金等で再生した町家（有松）

2. 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

- ・地域の歴史的資源の発掘（まち歩き、学習会など）
- ・地域主体の歴史まちづくりの促進・支援
- ・持続的なまちづくりの仕組みづくりの検討



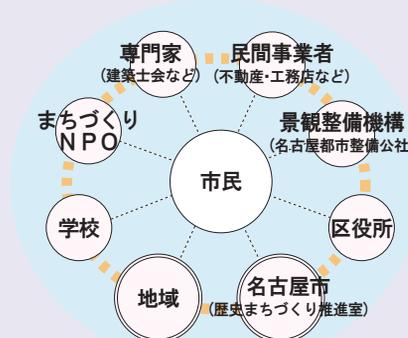
まち歩きの発表会



大まきわら船の復活（堀川まつり）

3. 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信

- ・地域住民、行政、NPO、専門家、民間事業者など、多様な主体の連携・交流の強化
- ・歴史的建造物の保存・活用の担い手の育成
- ・歴史まちづくりのデータベース構築、情報発信
- ・多様な主体が参加するイベント等を通じた交流の促進



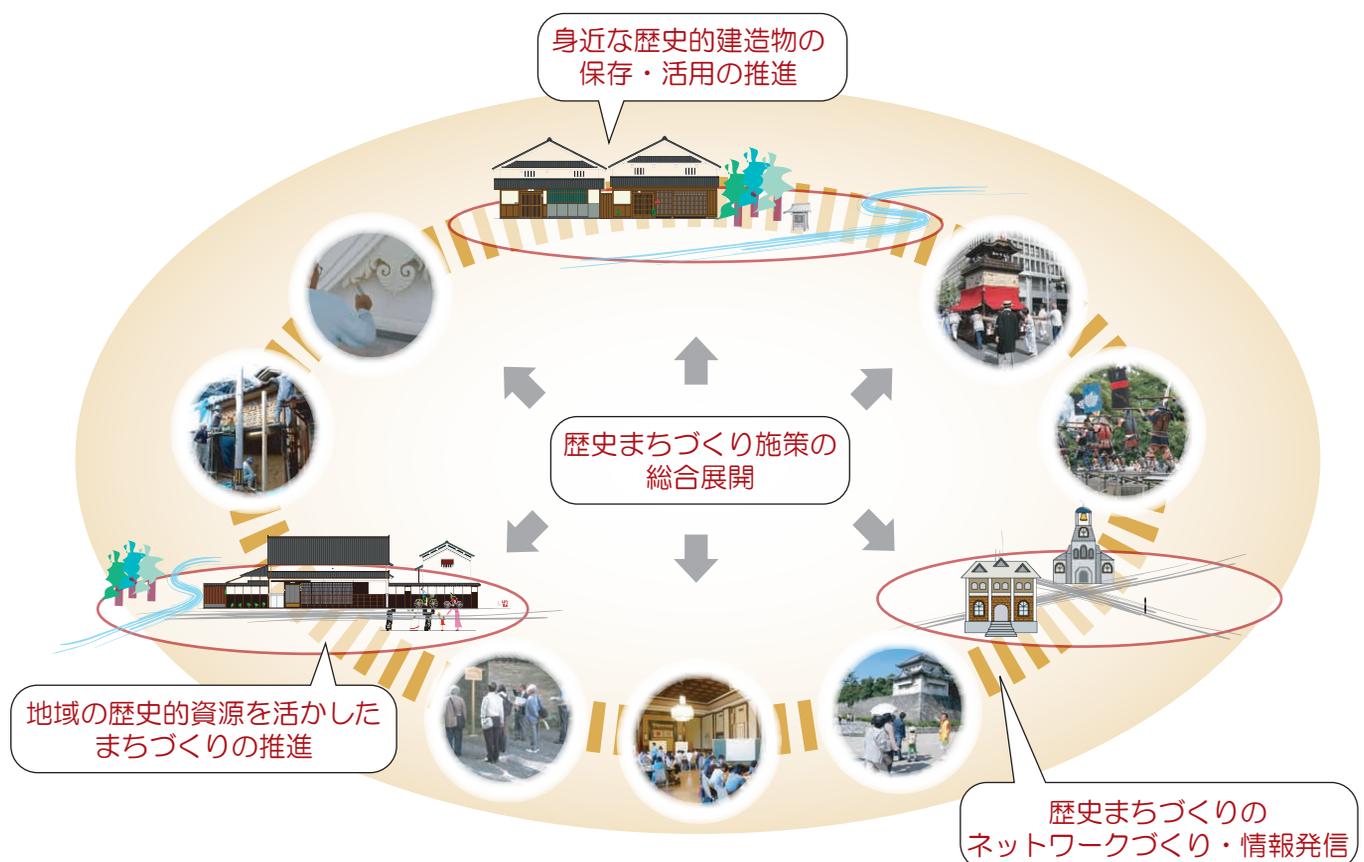
歴史まちづくりのネットワーク（イメージ）



インターネットによる情報発信（なごや歴まちネット）

4. 歴史まちづくり施策の総合展開

- ・歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定
- ・行政施策の総合的な展開（都市計画・景観、文化、観光、環境、産業など）
- ・周辺市町村との連携、広域連携（旧尾張藩、旧東海道、木曾川流域など）



<地域力の展開イメージ>

策定スケジュール

みなさまのご意見をふまえながら、平成23年春頃の策定を目指します。

意見・アイデアの募集

平成22年 10～11月

案の作成

案の公表(パブリックコメント)

平成23年 1～2月

案の修正

歴史まちづくり戦略の策定

平成23年 春頃

歴史まちづくり戦略(案)について、みなさまのご意見をお寄せください。

氏名			
住所			
性別 (この欄の記入は任意)	男 ・ 女	年齢 (この欄の記入は任意)	歳代

意見の内容

用紙はこれ以外のものでも構いません。

本編の閲覧

下記の場所でご覧いただけます。名古屋市公式ウェブサイトでもご覧いただけます。

- ◆住宅都市局歴史まちづくり推進室（市役所西庁舎3階）
- ◆市民情報センター（市役所西庁舎1階）、区役所情報コーナー・支所
- ◆名古屋市公式ウェブサイト（<http://www.city.nagoya.jp/>）のパブリックコメントのページ

提出方法

みなさまのご意見は、下記の提出先まで、氏名・住所を添えた書面にて、郵送、ファックス、電子メールにてお送りいただくか、ご持参下さい。

※電話または来庁による口頭でのお申し出につきましては、受付できませんのでご了承願います。
※みなさまのご意見につきましては、本市の考え方とあわせて公表する予定です。

募集期間

平成23年1月20日（木）から平成23年2月25日（金）まで

提出・問合せ先

名古屋市住宅都市局 歴史まちづくり推進室（市役所西庁舎3階）
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
ファックス番号: 052-972-4485 電話番号: 052-972-2782
電子メールアドレス: a2782@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp

個人情報の取扱いについて

- 1 個人情報の取扱いについては十分注意し、意見公表の際は個人情報が特定できるような内容は掲載しません。
- 2 住所、氏名、電子メールアドレスなどについては、名古屋市個人情報保護条例に基づき、他の目的に利用・提供しないと適正に管理します。